

# 患者さんへ

## 「門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対する放射線治療 成績の検討」について

神戸低侵襲がん医療センター（以下当院とします）放射線腫瘍科では、2013年4月から2014年12月の期間中に当院放射線腫瘍科で放射線治療を受けた門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌の患者さんを対象に「門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対する放射線治療成績の検討」について調査研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

この研究では、放射線治療をうけられた門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌の患者さんのカルテ調査を行うものであり、新規に患者さんへお願いする事はありません。この調査研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[\[問い合わせ窓口\]](#)までご連絡ください。

### 【研究概要】

門脈腫瘍塞栓や下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌は、一般にこれらの腫瘍塞栓を伴わない肝細胞癌に比べて予後が不良な病態です。しかし、手術をはじめとする局所治療は病変の進行状態や肝臓の状態などから適応とならないことも多く、この場合、放射線治療が有力な治療方法となります。

近年、放射線治療技術の進歩に伴い、従来の3次元原体照射に比べて、より多くの線量を使用することのできる体幹部定位放射線治療が実施可能となってきました。

門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対しても、この体幹部定位照射を用いた放射線治療を行うことで、従来の3次元原体照射に比べてよりより治療成績を得ることができるようになります。当院でも、2013年4月以降、体幹部定位照射を積極的に用いてきました。

しかしながら、門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対して、体幹部定位放射線治療を用いた治療成績のまとまった報告は少なく、また体幹部転移放射線治療の治療成績と従来の3次元原体照射の治療成績を比較した報告はありません。

このような背景から、当院における門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の治療成績をまとめ、また他院で施行された従来の3次元原体照射の過去の治療成績と比較することで、門脈腫瘍塞栓または下大静脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対する体幹部定位照射の有効性の検討を行うことは非常に重要であると考えられます。また、この研究を足掛かりとしてより有効な放射線治療法を確立することを最終的な目的としております。

本調査は、すでに実施された過去の記録を調査、検証するものであり、新規に患者さんに何かをお願いする事はありません。



**【取り扱うデータ】**

患者背景（年齢、性別、パフォーマンスステータスなど）、CT 画像、MRI 画像、放射線治療方法、併用療法、治療期間、有害事象（治療に伴う望ましくない症状）の種類と頻度・重症度、全生存率、奏効率などを電子カルテから抽出して解析します。

**【個人情報保護の方法】**

個人情報、データ等は、正確に尚且つ検証が可能なように記録・保管します。登録患者の同定や照会は、主に登録時に定められた症例登録番号を用いて行われ、患者名など第三者が直接患者を識別できる情報が本試験のデータベースに登録されることはありません。

**【研究参加による利益・不利益】**

利益・・・本調査に参加いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはございません。

不利益・・・診療記録からのデータ抽出のみのため、特にありません。

**【研究参加の取り止めについて】**

いつでも可能です。データを本研究に用いられたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

**【問い合わせ窓口】**

神戸低侵襲がん医療センター 放射線治療科 松尾圭朗

連絡先：078-304-4021